

□ 要請番号 (JL02618A02)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
東ティモール	H114 理学療法士		個別	新規	2年	・ 2018/3 ・ 2019/1



【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

社会連帯省

2) 配属機関名 (日本語)

クリーブル・ドミン・ファンデーション
NGO

3) 任地 (リキサ県ティバル) JICA事務所の所在地 (ディリ)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (車 で 約 0.3 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

配属先は2000年に豪州の慈善団体(RCA)により設立、2004年以降はティモール人が運営している。総スタッフ数は約40名で、主に①地域社会に根ざしたリハビリテーション(CBR)、②結核対策、③NGO滞在患者(障害者、結核患者、精神障害者)のケアの、3つのプログラムを展開している。JV派遣は、2015年の臨床検査技師(結核対策支援)に始まり、2017年に初代理学療法士JVを派遣。このほか、シンガポール、豪州等から短期ボランティアが頻繁に派遣される。2017年11月から米国ピースコーも総務サポートを行っている。年間予算は、50万ドル(RCAから35万米ドルのほか、政府からの支援あり)。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

2010年調査によると障害者は国民の4.6%に相当し、リキサ県内には約7千名がいると言われている。CBRプログラムは2007年に始まり、当初は18歳以下の子どもを対象としていたが、今は年齢の枠を設けていない。隣のエルメラ県も対象としており、現在計286名が障害者として登録されている。障害者の存在は、地域リーダーや医療従事者などから連絡され、身を隠している障害者と家族を説得し、時にはトイレ・車椅子などを提供することもある。NGOには20名まで受入可能な宿泊施設があり、常時5-8名が滞在している。理学療法士は主にNGO内のセラピー施設にいる。週1-2回車で村々を回るCBRチーム員は、約6ヶ月の訓練を受けただけで専門に学んだ経験はない。現在初代隊員が患者対応のほか、関係者の技量を伸ばすべく活動しているが、引き続き専門知識を持つ者の支援が必要である。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

以下のような活動が期待されているが、赴任後これまでの経験等について配属先と話し合い、活動の詳細を決めていく。
 ・ NGOにあるリハビリ施設で、同僚である理学療法士と共働しながら、施設入所および通所障害者のリハビリを行い、そのモニタリングと評価を実施する。
 ・ CBRチームと共に、週1-2回程度、村々を回り患者のアセスメントを行い、通所リハビリを実施・促進する。
 ・ 同僚やCBRスタッフに対し、日々活動する中で、また勉強会を開催するなどして、技術と知識の向上を支援する。
 ・ 過去のリハビリに関する記録方法、報告方法などを確認し、必要に応じて助言を行う。
 ・ その他、見出した課題について同僚・配属先と共有し、協力しあって改善していく。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

バランスボール、固定型歩行器、小児用起立台、エルゴメーター、治療用ベッド(複数)、卓球台、平行棒、姿勢鏡、トランポリン、車椅子、重錘

4) 配属先同僚及び活動対象者

所長 大卒男
理学療法士 男20代、インドネシアで3年勉強、経験4年
CBRスタッフ3名、男40-50代、経験9年
メディアオフィサー、男30代、経験4年
活動対象者:(3-70歳)脳性マヒ、脊髄損傷、脳卒中、切断、ポリオなど

5) 活動使用言語

その他

6) 生活使用言語

その他

7) 選考指定言語

【資格条件等】

[免許/資格等]: (理学療法士)

[学歴]: () 備考:

[性別]: () 備考:

[経験]: (実務経験) 2年以上 備考: 指導者となるため

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]: (サバナ気候) 気温: (23~32℃位)

[電気]: (不安定)

[通信]: (インターネット可 電話可)

[水源]: (不安定)

【特記事項】

活動や生活では習得が容易なテトゥン語を使用する。

【類似職種】